

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	愛の家グループホーム石狩花川 (1階ユニット)	評価実施年月日	H21・10・25
評価実施構成員氏名	・一條 ・斉藤 ・倉知 ・西口 ・草薙 ・山田 ・立石 ・竹原		
記録者氏名	一條	記録年月日	H21・10・25

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>MCS運営理念として</p> <p>1、その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします</p> <p>1、心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます</p> <p>1、さまざまな機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にします</p> <p>以上を理念として取り組んでいる</p>	<p>自ホーム独自の理念も作り共有して取り組んでいきたい</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>朝礼にてその日勤務のスタッフが毎朝唱和する事で共有し、日々の介護の提供を心掛けている</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ホーム入り口付近に理念を掲示し、面会に来られた方が見えるようにし、浸透に努めている</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内会行事に参加したり、ホーム行事に参加してもらったりと、定期的な交流を持っている。また、お向かいの方から、頻繁に自宅にて栽培しているお花をいただくことも多い</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会行事への参加、運営推進会議にて町内会長さんとの情報交換し、交流に努めている</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>最近では、町内のゴミ拾いに参加をした</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員全体で自己評価に取り組むことで、意義を理解し改善に向け、話し合いサービスの質の向上に努めている	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	入居者へ推進会議に参加してもらったり、参加者から情報をいただき、地域行事への参加につなげている	利用者、家族の参加を増やしていきたい
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	キャラバンメイトの活動や、ケア連絡会、職員交流会(参加予定)、昼食会などで、アドバイスを受けたり、情報交換を行っている	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	現在は学ぶ機会を持っていない	制度の理解のため、学ぶ機会をつくり、必要な方には活用できるように支援していきたい
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	ホーム内研修にて身体拘束と高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、防止に努めている	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	重要事項説明書、契約書に基づいて契約時、解約時は十分に説明をし契約を行なっている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や、日々の業務の中、ケアプラン作成時に随時要望、意見を聞いている</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月、個別のお便りを作成しホームでの様子、お知らせなどを実施している他、健康状態に変化があった場合や往診時の指示等は随時報告している</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時には出来る限り、スタッフ側から声を掛けていき、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。また、家族アンケートを年1回実施し結果を、検討し取り組んでいる</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、ユニット会議を開催し、管理者参加の下、進めていくため、直接意見や提案を聞けるようしている</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要時には管理者、リーダーと話し合い、勤務調整を実施している</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>基本的には、各ユニットの職員を固定し、馴染みの職員によるケアを心掛けている。また、新職員が入社する際、職員の異動があった場合は、見習い期間を設け、馴染みの関係になれるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>成熟度に合わせて、入社時研修、ステップアップ研修、毎月のホーム内研修、年1回の事例研究発表会の他、外部研修にも随時参加し、研修に対し積極的に取り組める環境づくりを行っている</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の研修会をはじめ、キャラバンメイトの集いや、グループホーム連絡会主催の職員交流会に参加予定をする等して、ネットワーク作りに取り組んでいる</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>グループ全体で、職員交流会の企画や、スポーツ活動、年数回の職員面談の実施と不満、不安を言えるような雰囲気作りに配慮している</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>年2回職員の評価制度があり、その中で、頑張りを評価できる仕組みをとっており向上心がもてるように努めている</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前の見学の他、面談を数回実施する等し、ご本人との信頼関係を築けるよう努めている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご相談があった際は、どんな事に困っているのかをまずは、一番先に聞き、困っている点に対しての対応ができるかどうかの検討から始めている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容によって、早急な対応が必要な場合は、他の事業所のサービスに繋がるようお手伝いするなどの対応を行っている		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学の回数を増やしたり、家族との連携を密に出来るように努力をしている		家族からの情報収集をもっと密なものにしていき、入居した時の不安の軽減をしていきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活行為を職員のみが一方的に実施するのではなく、掃除、洗濯、調理、盛り付け、買い物等々、入居者主導の行為が日々増え、共に支えあう関係作り徐々に出来るようになってきた		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事への参加や、季節の変わり目に衣替えのお願いをする等、関係が途切れないように努めている		ご家族の要望を聞く機会が少なく、家族の気持ち、立場になって考えることが不足している。行事の参加や日常でも気軽に訪問していただけるような関係作りをしていきたい
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居前、入居して間もない時期にはセンター方式のシートを使用しご家族との関係性の理解に努めているが不十分		情報収集が不足している部分が多々あるため、より密な情報収集に努めていきたい
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	誕生日の日など、個々の希望、要望を伺い、それに沿った場への外出を実施している。自宅、銭湯、大切な人との外食等々個別の要望に合わせ、出来る限り思いでの場所への外出となるように心掛けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者個々の出来る事、出来ない事を職員が把握し、個別に合わせた生活動作が出来るようサポートしている。また、他の入居者との交流が困難な方には職員が間にはいり共に、同一の活動ができるようにサポートをしている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスの利用が終了した方への支援は、ご本人が亡くなってしまわれるケースが多く、その後の継続的な関係作りは出来ない状況の場合が多い		今後、サービス利用が終了した方についてもご家族との関係を密にしていき、関係を断ち切らない方法を考えていきたい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン更新時、アセスメント等で本人の意向の把握に努めている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	自分らしい生活をしていただける事を目指して、これまでの暮らしの把握をしていくため、ご家族へセンター方式のシート記入に協力して頂いたり、聞き取りを実施したりと把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	出来る事、出来ない事を把握し、出来ることを生かす、出来ることを見つけることに視点を置き、日々の生活、活動の中での把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランを立案する際、本人、家族の要望や意見が盛り込める内容とするため、聞き取り等実施しているが、ご家族の思いや、感じていることなど深い部分では不十分		今後の課題として、ケアプラン立案の際のカンファレンスを本人、家族等に参加していただけるようにしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況、状態の変化に伴い、随時見直しの実施を行っている		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿った内容のケアを実施し、都度、個別記録に記載している。また、モニタリングも個別記録を下に実施し、ケアプランの見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人と家族の暮らしを継続していくための、多機能性を活かした柔軟な支援は出来ていない		グループホームという枠組みだけではなく、社会資源としても地域に貢献できるようにしていきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ご近所の方による、マージャン、将棋ボランティア、キャラバンメイトでの民生委員、地域包括、行政との関わり、推進会議での町内会、民生委員との関わりなど、交流を持つように努めている		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ボランティアとの関わり、訪問美容、町内会主催の清掃活動、ゴミ拾い等に参加させていただくこともあり、他の社会資源を少しずつ、利用出来てきている		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が必ず参加していただけるので、その場で必要な情報の交換を行ったり、報告をしたりと協力関係を築いている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前のかかりつけ病院の通院を継続したり、必要に応じて、専門医院へ受診をしたりと、本人、家族希望に応じた往診、受診が受けられるよう支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関の医師が、長年高齢者、認知症に携っていた医師で、随時、相談、指導、助言をしてくれている</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や、状態変化に応じた支援が行われるようにしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院発生時は、病院関係者、主治医、担当看護師、相談員等と連携をとり、ご家族を含め退院後のケアについての話し合い、検討を随時進めている</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入院が発生した場合には、ご家族、主治医と今後についての検討を行なっているが、重度化、終末期に対する方針の検討を事前には行なえていない、準備体制が整っていない</p>		<p>随時、ご家族、主治医と終末期、重度化した場合の方針を共有できるように個々に検討して行きたい</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化、終末期に向けた検討や準備は、チームとして不十分。何が出来て、何が出来ないのかを見極めるのが難しい部分も多い</p>		<p>今後に備え、まずホーム全体として、チームとして、出来る事、出来ない事を考え、検討するところから始めていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>センター方式のシートや、介護添書等にて書面上では情報交換ができていますが、十分な話し合いが出来ているとはいえないレベル</p>		<p>担当するケアマネ、相談員、ご家族と書面を下に十分に話し合いが出来る場を作っていきたい</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>排泄時の声掛けなどは、周りに聞こえないように気配りをしている。また、ご家族へ状況報告、ご要望を伺う際は、別室にて話をする等し、配慮している</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>外出をする際は、行きたい場所、したいことの要望を聞き、希望に添うような対応をしている。また、日々の入浴、食事等々自己決定ができるような対応を行っている</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>行事や、買い物、散歩等個々の希望に合わせた対応を日々行っている。集団で行動するよりも個性を重視した対応を心掛けている</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月1回の訪問美容にて好みの髪型にしてもらっている程度で、日々のお化粧品やおしゃれを楽しむまでには至っていない</p>		<p>入居者が昔から通っている馴染みの美容室へ行ったり、日々の生活の中で、化粧品やおしゃれを楽しめるようにしていきたい</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理の下ごしらえ、後片付け等、個々のできることに合わせながら入居者と、職員と一緒に準備を行っている</p>		<p>今後は個々の好みに合わせた食事の提供をしていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒、タバコ等、本人の嗜好に合わせ、禁止することなく、ルールに添い支援している		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けする等し、排泄による失敗を少なくするような対応、声掛けを行っている		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日の設定はしていなく、毎日入浴を実施できる体制作りをしている。また、本人の希望に合わせた入浴となるよう希望は随時聞き実施している		全面的に介助していることが多いので、出来るところは自力で出来るように支援していきたい
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動をなるべく多くし、夜間、スムーズに睡眠が出来るように支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の出来ることや、以前にしていたこと等を考慮して、個々に合わせた活動、役割の提供をしている		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理能力がある入居者様には、ご自分でお小遣いを持ってもらい、買い物時には自力にて支払いが出来るように支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム内の外出行事、日々の散歩、買い物の他、町内会の行事にも参加している		本人の要望に合わせた外出や町内の行事、集まりへの参加の回数をもっと増やして行きたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	誕生日の日等は、個別に希望を伺い、温泉、自宅への帰宅、家族との外食等、希望に応じた対応が出来るようにしている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分用の携帯電話を自由にしようしている方もいる。又、それ以外の方も、要望に応じて電話や手紙等で、家族、知人と連絡が取れるような体制にしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の設定はしていなく、仕事帰りや、ご家族の都合のいい時間にいつでも来訪できるように配慮している。又、面会時は自室でゆっくりと過ごしていただけるような環境づくりを実施している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	身体拘束については、定期的な研修、ホーム内研修等々で、職員全員が共通認識で できるように随時取り組んでいる		今後も定期的に勉強会を行い、認識を深めたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間帯以外は、鍵を掛けないようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は常にフロアに職員1名いる体制をとり、入居者の安全確認を実施している		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状況に合わせて、管理が必要なものと、そうでないものを分けて保管管理をしている		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ箱を設置し、気になる点、危険な点があれば随時投函できるようにしている。また、事故が起きた場合もすぐに事故検討を実施している		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故対応、緊急時の発生時のマニュアルを各フロアに置き、随時目を通して確認できるようにしている		緊急対応の勉強会、実践会等を年に1回程度職員が受けられるようにしていきたい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を受けて、年に2回、日中設定、夜間設定など分けて避難訓練を実施している		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族来訪時や、毎月のお便りでの近況報告にて事故についてのリスクの報告を行い、ご家族と話し合い、自室の環境整備等行っている		今後は、もっと家族と話し合う機会を多く持ち、リスクについての検討をしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日定時に血圧、体温測定を行い変化をチェックしている。また、変化、異変があった場合は看護師、医療機関と連携を取り指示をもらい対応している</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服用していただく際は、声に出し内容の確認をする他、他のスタッフにも確認してもらい、誤薬のないように配慮している</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排便チェックを行ったり、食べやすいよう飲食物の工夫や、水分摂取を心掛けている</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>スタッフ介助の口腔ケアの他、歯科医師ともれんげいし、協力をいただいている</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分や、食事の摂取量、残食量をチェックし職員同士が情報の共有をし、個々に合わせて調節をしている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染防止マニュアルを下に、手洗い、うがいはじめ、ホーム内の消毒等を徹底している</p>	<p>インフルエンザ対策、ノロウイルス対策には特に注意し、徹底して実施をしていきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材の買い物は1日おきに行ない、食材を新鮮なうちに使用するようになっている。台所、調理用具の衛生も消毒し、日々徹底して実施している</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>掲示物等で親しみやすさを出し、明るい印象を心掛けている</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感が出るよう掲示物の工夫、張り替え、飾り物の工夫をしている</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂、リビングは随時席替え、配置の変更をし過ごしやすい居場所作りを心掛けている</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なるべく、本人の好みの物、使い慣れたものを使用し配置している</p>		<p>本人の居室がもっと馴染みの空間、本人の居場所と認識していただけるようご家族と相談し、環境づくりをしていきたい</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気や温度調節には気を配り行っている。又、トイレ等の臭いには消臭剤を置き対応している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2 / 3</del>くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある  <del>数日に1回程度</del>ある            たまにある            ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p><del>ほぼ全ての利用者</del>            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2 / 3</del>くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p><del>ほぼ全ての利用者</del>            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族  <del>家族の2 / 3</del>くらい            家族の1 / 3くらい            ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように            数日に1回程度  <del>たまに</del>            ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている  <del>少しずつ増えている</del>            あまり増えていない            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が  <del>職員の2/3くらいが</del>            職員の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><del>ほぼ全ての家族等が</del>            家族等の2/3くらいが            家族等の1/3くらいが            ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・誕生日には入居者の希望に合わせて個別の外出をしている
- ・調理、掃除は入居者中心で実施できるよう促しの機会を増やしている



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	MCSとしての運営理念を作り上げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日朝礼で理念を唱和し、確認しながら意識し取り組んでいる。いつでも確認できるように理念を提示している。	○ 介護の提供の場面では理念に立ち返りながらケアの基本としているが、もっと職員間で確認できる機会を増やしていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議やホーム見学のとき地域やご家族に機会があったときは、説明したり伝えている。又、ホームのパンフレットに明記して伝えていく工夫をしている。	○ ホーム便りやホーム新聞等を通して、さらに理念をご家族や地域の人々へ浸透して理解してもらえるような工夫をしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時や回覧板を回すなど、又、近所の方からお花をいただいたり日ごろの挨拶はもちろん関係を深めている。	○ ホームの行事(バーベキューや、うどん打ち等)に誘って参加していただいたが、もっと気軽に近隣の方々がホーム立ち寄りしたり、見学できる等ふれあう機会を増やす工夫をしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事への参加(町内会館の掃除、ゴミ拾い、敬老会、お祭り等)を通して交流を深めている。ボランティアの方が、月3～4回来てくれている。	○ さらに交流を深め、地域の人々と支えあう関係にしていきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	パンフレットや掲示物、運営推進会議で認知症に関する相談を受け入れている。	○ 介護教室や実習生の受け入れ等を通して、認知症の理解や認知症ケアの啓発に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>サービス評価の意識や目的を伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。</p> <p>自己評価は全職員で行ない、その結果を共有し、改善に向けて意識して取り組んでいる。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>自己評価の結果をさらに具体的に話し合い、1つひとつ確認、点検しながらサービスの質の向上を図りたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回会議を開催し、参加メンバーから質問、意見、要望を受け明らかになった課題や検討事項について経過報告し合っている。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>ご家族の参加率を高める工夫をしていき、もっと意見をもらいサービスの向上に繋げたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の他折に触れ情報交換し、関係づくりを行なっている。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>開かれた事業所として、もっと職員や利用者との交流を図っていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員への説明や勉強会等の機会が持てず、職員は理解できないため、必要時に支援できる体制は万全とは言えない。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>職員全員が学べる機会を設け情報提供していく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>定期的にホーム内勉強会を開き、分りやすいように説明、理解を深めている。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>勉強会やミーティングを通して、理解の浸透や徹底に取り組む。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前に見学を行なっていただいたり、契約時も契約内容を説明した上で契約を行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情窓口の掲示をして働きかけている。ユニット会議や折にふれ意見を上手く表すことができない利用者であっても、本人の意向を探って、検討に取り組んでいる。		利用者の意見、不満、苦情を職員全員で共有し、利用者の立場に立った解決に努め、信頼関係を深めていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族宛の「お便り」を月1回発送し、担当スタッフより様子を報告している。又、お小遣い帳の確認をしていただきご家族にその都度サインをいただいている。ご家族の来訪時は、日ごろの様子を報告したり、要望を伺っている。		常にご家族の立場に立った思いに徹し、配慮ある対応に努めさらにご家族が満足していただけるよう取り組んでいく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に一度ご家族アンケートを行ない、利用者やご家族の意見を収集し、改善に努めている。ご家族の来訪時、声をかけ要望を伺っている。	○	家族会を開催する等、もっと何でも言ってもらえる雰囲気づくりをしていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回ユニット会議を開催し、職員の意見を求める機会を設けている。年1回スタッフアンケート、個人面談を行ない意見を反映させる機会を設けている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、利用者のペースに合わせたローテーションを組んでいるが、必ずしも余裕を持った人員確保は出来ていない。	○	職員間の親睦を深める機会を増やし、意見や要望を言える雰囲気づくりをしていく。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係が出来るように、職員の固定をしている。やむ得ず異動がある場合は見習い期間を設け、馴染みの関係が出来るようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>毎月ホーム内研修があり、全職員が参加している。他ホームと合同で行なわれる研修には、なるべく多くの職員が参加できるようにしている。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>事業所外で行なわれた研修の参加は少なく、職員も研修報告書を閲覧できるようになっている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他ホームでの交換研修やスタッフ研修を設けて、質の向上に励んでいる。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>数箇所のホームで、事例研究発表会を行ない、同事業所外の同業者や医療関係者からの意見や経験もケアにいかしている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に他ホームとの交流会があり、気分転換を図れる機会をつくっている。勤務時間中にも気分転換できる休憩室を確保している。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>職員アンケートが実施されており、不安なことなどを記入し、悩み等を把握するよう努めている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>年2回健康診断を実施している。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>リーダー研修やホーム長研修など上の役職を目指せる環境がある。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談で生活状態を把握するよう努めている。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>事前にアセスメントを取り、入居前に職員が目を通し、把握できるようにしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族が求めているものを理解し、ホームとしてどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>本人の状況を把握し、信頼してもらえる関係づくりに努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思い、状況を確認、必要なサービスにつなげるように努める。	○	今後も家族の状況を把握し、信頼関係を築いていきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居される際は、馴染みの家具や用具等をおもちして頂き、不安が軽減し、安心して生活できるよう努める。	○	本人や家族に、事前にホームを見学してもらっている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の思いや不安など、否定せず共感し、受け止めるよう努めている。	○	それぞれ得意なことを発揮できる場を、提供できるよう心掛けている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に電話や面会時、利用者の様子や変化などを報告している。	○	ケアプラン作成時、ご家族にも参加していただき、ご家族と共に利用者にとってよりよい生活を送っていただけるよう取り組んでいきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	外出、外泊をして頂いたり、行事にお誘いしている。	○	月に1回、日々の様子をお知らせするお便りを家族に送っている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人、友人の方の訪問や電話、手紙で連絡があった際は、つながりを継続できるよう努める。	○	いきつけの美容室、お墓参りなど外出、外泊は一人ひとりの希望する日に行なっていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士、言い合い等があった場合、職員が間に入ったり、場合によっては座席やテーブルの配置を変えるなどして、入居者の関係がうまくいくよう支援している。	○	今後も、入居者同士の関係性について情報を共有していきたい。また、日々気分や状況も変化するため、その都度変化に気付けるよう意識して取り組んでいきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスの利用が終了した方への支援は、ご本人が亡くなってしまわれるケースが多く、その後の継続的な関係作りは出来ない状況の場合が多い		今後、サービス利用が終了した方についてもご家族との関係を密にしていき、関係を断ち切らない方法を考えていきたい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との会話の中や情報などから思いや考えを、汲み取れるよう努めている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に自宅を訪問したり、ご家族、ご本人、関係者などから情報をもらっている。	○	入居後もご本人、ご家族、知人等、面会にこられた際に少しずつ把握しているが、今後も一つでも多く把握できるように取組んでいきたい。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	できないことに目を向けるのではなく、できることに注目し、できることを伸ばせるよう努めている。	○	利用者一人ひとりの生活のリズムは大体把握しているが、まだまだ把握できていないことも多い。今後も、日々生活の中での小さな言動、動作等から感じ取り、把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員全体がモニタリングやセンター方式の用紙を使用し、本人のできることを伸ばせ、より良い生活を送っていただけるよう介護計画を作成するよう努めている。	○	10月よりカンファレンスを行なっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご本人の状態が変化した場合、見直しを行なっている。又、変化の見られない場合であっても、ご本人の状況を把握し、ご家族の要望も取り入れ、見直しを実地していきたい。	○	ご本人の状況に応じた介護計画のもと、きめ細かいケアサービスを提唱していきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に沿った記録を行なっている。それ以外でも気付いたことは、細かく記録している。	○	職員間で情報を共有し、実践する事でよりよい介護計画の見直しに活かしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	地域周辺への働きかけや、ボランティアの協力を呼びかけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の希望に応じて、理美容サービスを利用している。	○	ボランティアへの働きかけが不十分な為、もっと多く協力をお願いしたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	運営推進会議に出席され、情報交換をしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が必ず参加していただけるので、その場で必要な情報の交換を行ったり、報告をしたりと協力関係を築いている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医を利用している人もいますが、ご本人、ご家族希望により往診を受けている方もいる。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門員より適切な指示が受けられるよう常に連絡を取っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的に看護師が来るので、相談、助言、対応を行なってもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は医療機関、ご家族と連絡をとり、退院後の支援について話し合う。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	その都度医師、ご家族と話し合いをしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化、終末期に向けた検討や準備は、チームとして不十分。何が出来て、何が出来ないのかを見極めるのが難しい部分も多い		今後に備え、まずホーム全体として、チームとして、出来る事、出来ない事を考え、検討するところから始めていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入所、退居時ともに情報交換、きめ細かい連携を心掛けている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>本人を傷つける事のないよう、言葉かけに注意をしている。個人情報の漏洩防止を徹底している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々に合わせた言葉かけにより、意思表示して頂く。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人の生活リズムを尊重し、希望に沿って支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>出来るだけ、本人の希望に添えるよう努めている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>簡単な調理、後片付けは声掛けにて行なって頂いています。お弁当などの場合、個々に選ばれています。</p>	<p>○</p>	<p>キッチンに入る機会を増やしていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	職員は入居者さまのことを考え食事の用意をしている。又、一部の入居者様に対して食後のタバコの用意をしている。	<input type="radio"/>	お酒に関しては時々進めているが、一部の入居者様は入浴後にノンアルコールビールを飲まれている。
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄や排尿等入居者様自身が気分を悪くならない様にしています。	<input type="radio"/>	もっと全体的に入居者様のトイレのパターン等を理解し、失敗のないようにしていきたい
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	定期的に入浴をして頂けるよう声掛けをしている。又、入浴を拒否される入居者もいるが、必ず声掛けをしている。	<input type="radio"/>	一部入浴を拒否され、長い間入浴されない入居者様がいるため職員同士又は家族の方と話し合い解決していきたい。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	一人一人の生活習慣を理解し、気持ちよく休んでいただいている。	<input type="radio"/>	これからも入居者様が安心して、休んでいけるように心掛けたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	一人一人の方に役割をもって頂き、出来る事は手伝って頂いている。又、レク等の行事を考え楽しみを持って気晴らしをして頂いている。	<input type="radio"/>	一部の入居者様は、あまり進んで手伝いや、レクに参加されない事があるので何か楽しみを持てるような役割を考えたい。
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	入居者さまはお金の管理が出来ないのが現状なので、職員が管理をしているが買い物レク等楽しみを持ってお金を使って頂けるよう支援しています。	<input type="radio"/>	これからも入居者様自身に楽しみを持って頂けるように心掛けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や季節等に応じた行事を考え、気持ちよく外出して頂けるよう心掛けている。	<input type="radio"/>	全入居者様に対しての行動を考えているが、一部の入居者様は気分が乗らないこともあるので、それらも考え取組んでいきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	図書館等なかなか行けない所もあるが、本人の希望により職員が理解して毎回とは言えないがシフトなどを考え出かけられるように、心掛けている。	<input type="radio"/>	一人ひとりの意見を聞いたり、大事にしながら実現できるようにしたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様が家族の方に電話をしたいと言われたときは、かわりにかけるなどし、つながったら本人と代わり話をして頂いている。	<input type="radio"/>	入居者様が手紙を出したい時は、職員も協力して支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や知人等の方が気軽に来て頂けるような、雰囲気づくりに心掛けている。	<input type="radio"/>	ご家族や知人だけではなく、地域の方々が気軽に来られるような雰囲気等を作り、もっと沢山の交流の場を作りたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体の拘束はしないで、自由でいられる様に心掛け実施している。	<input type="radio"/>	拘束などはせず、これからも自由に生活等が出来るように支援していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や廊下に出るための扉は、常に開放している。	<input type="radio"/>	鍵を閉めると本人の自由を奪う形になるので、日中は開放し夜間は閉める等していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中1階へ降りられる方への安全をさり気なく見守る。夜間良眠出来るよう配慮する。	○	いつも利用者の居場所を把握している。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、ハサミ、裁縫道具など使用しないときは保管。使用する際は職員も一緒に行なう。	○	利用者様、状況を考慮しながら、保管、管理していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内服介助の時は声出し確認を実施したり、ヒヤリ箱を設置するなどして日々の事故予防に努めている。また、事故報告、ヒヤリハット、全ての職員が回覧。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急対応マニュアルが、食堂に貼ってある。それを見て、速やかに対応できるようにしている。	○	研修、ホーム内研修にて、対処方法、救急救命法を学んでいきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施している。避難の際、怪我のないよう十分注意し、誘導していきたい。	○	今後も、消防署の協力を経て避難訓練、消火器の取り扱い方を指導して頂きたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族との話し合いはされている。	○	施錠せず、1階、2階互いに行き来しているが、今後より機会を増やしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタル測定を行う中で、気づいた変化を、報告し合い、正しく記録し、正しく伝えるようにしている。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>些細な変化も見逃さず、報告。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々に見やすく、処方箋がファイルされている。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>薬の処方や、用量の変更や状態の変化が見られたら、いつもより詳細に記録する。その事を、職員全員が把握する。医師、看護職員との連携。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排便状況の記録、水分量の記録を毎日実施している</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>便秘解消の体操を取り入れていきたい。居室にこもることなく、声掛けにてお手伝いをして頂いている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>起床時、毎食後口腔ケアをしている。磨き不足の方々は、仕上げのブラッシングを職員がしている。(歯科医師の指示あり)</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>声掛け、見守りにて丁寧に頂く。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事チェック、水分チェックをとり、不足しないよう職員全員意識を持って対応している。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>水分不足にならぬよう 摂取回数を増やしていきたい。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染防止マニュアルを下に、うがい、手洗いの徹底。</p>	<p><input type="radio"/></p> <p>外出された時には、特に忘れずに声掛けをして頂く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材の買い置きをせず、新鮮な物を食べて頂く。食器の熱湯消毒(一日一回) ぶきんの消毒。</p>	<input type="radio"/>	利用者様と一緒に調整する。その際、手洗い、すすぎを丁寧にして頂く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先に沢山の花壇が置かれている。車椅子移動に便利な手作りの段差防止の台が置かれている。</p>	<input type="radio"/>	靴箱もいつもきれいである。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>廊下壁に、写真(レクその他の)を貼っている。トイレの棚にカーテン使用。季節感のある花、木々を飾っている。</p>	<input type="radio"/>	明るいアットホームな共用空間でありたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂で過ごされる事が多い。</p>	<input type="radio"/>	リビング、ソファ以外に、畳をしき数人で談笑したりゲームを楽しめる場所をつくりたい。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>い心地がよく、かつ安全であるようにする。(じゅうたんに躓かないよう固定する)</p>	<input type="radio"/>	転倒なども考慮して、家具を配置するようにしたい。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>利用者様の状態や対応を見ながら、換気、空調をしている。トイレ内便臭強い時には、消臭スプレーを使用することがあります。</p>	<input type="radio"/>	利用者様居室にいらっしゃらない時に、ご本人の許可を得て居室の換気をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり、			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者様の状況に合わせて、トイレ、浴室、廊下などに手すりを付けたり段差を消しています。洗面台や物干しの高さを利用者の使いやすい高さに設置し、自立と安全の配慮をしている。</p>	<p>○</p> <p>安全で自立した生活が送れるよう、共同スペースのみではなく、居室の環境づくりも強化していきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>「どうしてそのような行動をとったのか」を追求し、職員全員で話し合い、その後の対応を決める。不安なことを一緒に記述することで、不安を取り除いたり自立の促しをしている。</p>	<p>○</p> <p>職員同士の連携を大切に、混乱や不安を防げるよう情報共有を強化していきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>畑スペースを確保し、草むしり、水やり、収穫を楽しみながら生活出来るような環境にしている。外に物干し竿を設置し、利用者の力を生かす行動が出来るようにしている。</p>	<p>○</p> <p>今までやってきたように、外で楽しんで活動できる畑や植木を活用し、力を生かせるようにしていきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている <del>少しずつ増えている</del> あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が <del>職員の2/3くらいが</del> 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が <del>利用者の2/3くらいが</del> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が <del>家族等の2/3くらいが</del> 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・なるべく入居以前からの趣味が継続できるよう取り組んでいます。又、ホームの生活が自宅であると思っただけよう、個人の出来る範囲で掃除や料理など自然に出来る雰囲気づくりをしています。